

戦後復興を象徴するテレビ塔は、再生事業で文化財としての価値を高め栄地区の活性化も目指す

来年一月から耐震工事の着工を予定し、二〇二〇年六月までは営業を休止する名古屋テレビ塔。工事とともに全館がリニューアルされ、話題性と収益性の高い事業が予定されている。しかし耐震整備の検討だけでも一三年もかかっている。この経緯を、歴史を含めてふりかえった。

「名古屋テレビ塔は電波塔であるとともに観光塔としてスタートした民間施設です」と名古屋テレビ塔の大澤和宏社長。一九五三年の同社設立の際の資料「株式会社設立の趣旨」には、「放送用鉄塔だけでなく観光的施設として建設すれば、名古屋市の宣伝と観光客の誘致に絶大な効果が効果を収めえる」とあった。戦災からの復興気運が高まる中、市民の願いと名古屋の財界や放送局の尽力で一九五四年に開業したのがテレビ

がかかるなど、多くの課題があった。

名古屋タワーが全国のタワーのモデルに

これらのハードルをクリアするため、「足下にある久屋公園のにぎわいの創出を図ること」と「放送事業者との共同運営を行うこと」を事業スキームにして、同社は入場者の確保と安定した収益を目指した。この方法は日本初で、後に続く札幌タワー（大通公園内に建設）、東京タワーや東京スカイツリー（足下に観光施設や商業施設）にも継承されていく。

二〇〇五年、名古屋テレビ塔は日本初の有形登録文化財として国

から指定された。「日本人の心にタワーという造形的意義を創った意義は大きい」と評価されたのである。それ以上に「後に建設されたタワーが名古屋をモデルに創られた」ということが大きかったようである。「テレビ塔の事業スキームは、全国初で誇るべきものでしたが、残念ながら全国ではあまり知られていません。これは名古屋人の情報発信力の乏しさでしょうか」。

文化財としての価値を高めるための耐震工事

「私は伊勢湾台風や相次ぐ地震にもびくともしなかったテレビ塔の、文化財としての価値を高め永

遠に遺したいと考えてきました。今回の耐震工事は、テレビ塔を永遠に遺し、文化財としての一層の価値向上を目指すためのものでもあります。しかし計画から工事着工まで一三年もかかりました」と大澤社長。

ネットは工事費用だった。当時、免震工事から試算されたのである。そしてテレビ電波塔の役割を終えるなどのテレビ塔の環境変

化もあり、一度は二一年に計画された工事は、実現には至らなかった。

テレビ塔はこうした流れの中でも再生への歩みを一歩も止めることはなかった。〇六年には全館リニューアルを敢行。特徴的な施設、店舗作りのほか、テレビ塔を中心に公園全体をイルミネーションで飾る「アカリナイト」など、人を呼び寄せられる様々な仕掛けを創



テレビ塔内から見える緑豊かな久屋公園北エリアを見ながら耐震までの長い道のりを語った大澤社長

出していく。一〇年続いた赤字は黒字に転換、収益を年々伸ばし、現在の利用者は三〇万人を超えるまでになった。この企業努力が耐震整備工事の計画実現を近づけたと言える。

今回の免震工事は、世界初の新工法を採用。掘削を最小限にして低コスト化（七〜八億円）を可能にした。テレビ塔は法律上、工作物の扱いだが、耐震基準を満たすことで新たな飲食物販店の導入が可能になった。免震工事とリニューアルを合わせた総工費は二〇億円と試算され、テレビ塔再生事業は現実まであと一歩となった。

テレビ塔は他のタワーより構造がシンプルで耐久性に優れる上に、鉄鋼をリベット打ちでジョイントさせている。他のタワーのようなビス打ちの建造物よりジョイント部が緩むことが少ないという構造的な強みがある。「コンクリート造りの建物は寿命が一般的には数十年ですが、鉄塔はメンテナンスができれば半永久的とされています。テレビ塔は昭和最後の文化

財（フランス・エフェル塔開業一二九年）として遺っていくことでしょう」と大澤社長。名古屋で生まれ育った人には、それぞれの思いがあるテレビ塔。今回の再生事業で、名古屋人の思いをつなぐだけでなく、起爆剤として、名古屋の情報発信地として永久に存在感を高めていく。



テレビ塔館内は全面リニューアルされ二〇年七月に営業を再開。他のタワーにはない映像を駆使した展望デッキ、映像システムでの情報発信、大型ビジョンの設置、VR体験が出来るデジタルコンサートホール、高感度の飲食店など、クラス感があり斬新な仕掛けが詰め込まれたものになる。加えて久屋大通公園と連続性を持たせるため、公園北エリア及びテレビ塔エリアを整備、「名古屋のシンボル・テレビ塔」の全景が公園のどこからでも見られるように「ビスタライン」が整備される予定である。